

【教育目標】

進んで学ぶ子ども  
思いやりのある子ども  
たくましい子ども



# 夢に向かって

～未来を奏でるきらめく感性～

学校だより No.3

令和5年6月27日

中央台東小学校

校長 松崎 健一

「皆さんで、元気で楽しい自分たちの中央台東小学校を創りましょう。」

梅雨に入り、どんよりと曇った日や雨の日が多くなりましたが、学校では、大粒の汗をかきながら6年生が陸上練習に励む姿があったり、水泳の指導が始まり気持ちよく泳ぐ子どもの姿があったりと、夏を感じる風景がたくさん見られるようになりました。1学期も、残り1ヶ月あまりとなりました。これまでの学習面・生活面での自分を振り返らせるとともに、次への新たな目標をも持たせたいと思います。



## 日々、そこには多くの「学び」があります

学校は、様々な学習活動を通して、子どもたちの学びを具現しています。「書く」「発表する」「話し合う」「考える」「聴く」「質問する」「インタビューする」「記録する」「まとめる」「測る」「調べる」「見学する」「発見する」「会を進める（朝・帰りの会、委員会、激励会、全校集会等）」「運動する（走る、跳ぶ、投げる、様々な動き等）」「演奏する」「作る」「体験する」等々、毎日毎時間、子どもたち一人一人が教師の導きや友達との関わりを通して多くの『学び』をしています。

### 1年生 学校たんけん

自分たちだけの探検です。恐る恐る校舎内を歩く姿も見られましたが、質問したりメモしたりと、友達と協力して探検することができました。



### 自分たちでできる！

すっかり、学校生活に慣れた1年生。座る姿勢や手の上げ方が身についてきました。朝の会や帰りの会の進行も自分たちだけで進めることができます。



### 2年生 まちたんけん



中央台の町に出かけての学習です。郵便局、ウエルシア、ララシヤを訪問させていただきました。子どもたちはどんな発見してきたのでしょうか。発表が楽しみです。

### 3年生 中央台はかせになろう！



自分が住んでいる地区には、どんなものや設備があるのかを探ります。普段、何気なく目にしてのものにも着目させて、なぜ必要なのかを考えさせます。どんな絵地図にまとめるのか楽しみです。

### 4年生 出前講座

福島民報新聞社の方が講師となり、新聞の役割や作り方を学びました。実際に新聞作りに携わっている方からのお話だったので、興味関心も高かったようです。子どもたちからたくさんの質問が出てきたことが、講師としてとても嬉しかったとおっしゃっていました。今後、学んだことをまとめる一つの方法としても活用できればよいと思います。



講師の先生は、今回の出前講座の号外をあっという間に作成し、その日のうちにプレゼントしてくれました。ありがとうございました。

### 5年生 宿泊活動 in いわき海浜自然の家

久しぶりに、宿泊しての活動となりました。子どもたちは、体験してみても初めて分かる大変さや楽しさを感じたはずでした。



2日目はあいにくの雨となり、室内での活動となりました。それでも、子どもたちからは「楽しかった」という声が多く聞かれました。みんなで活動する充実さを感じたのではと思います。今後も、みんなで一緒に協力して取り組む楽しさを追求して欲しいと思います。



係児童が上手に進行し楽しい場を創りあげることができました。

## 6年生 力を出し切った陸上競技大会!

6月22日、いわき市営陸上競技場において第51回いわき市小学校陸上競技大会が開催されました。途中から雨がしとしとと降る中での競技となりましたが、子どもたちは、互いに声援を送り合って全力を尽くしました。

これまで、先生からの叱咤激励や友達からの励ましを受けながら、朝の時間や体育科の授業、放課後を使って練習を積んできた6年生。本気で練習したからこそ、入賞して喜び、自己記録を更新して満足する子、結果が出なくて悔しがる子と様々でした。この経験が、さらに子どもたちを強くしてくれるのではないかと思います。よく頑張りました。



陸上競技大会前の16日には、出場する6年生を激励する会を開きました。5年生が中心となり、大きな声援をはじめ、楽器演奏やダンスを取り入れ、全校一丸となって明るく力強い応援をすることができました。



## 校長室より

全校集会で、次のような話をしました。

「しっかり叱られなさい。叱られることから逃げてはダメです。叱られたときは、ダメな自分に気づくチャンスなんです。」

子どもの『学び』は、授業や行事ばかりではありません。学校は様々な人たちとの集団生活をする場です。生きていれば人間関係上のトラブルに巻き込まれることは誰にでもあります。大人でもあるのですから子どもはなおさらです。よって、日々の学校生活の中で、子ども同士のトラブルも当然のように起きています。そして、先生方の指導が入ります。

話は変わりますが、私はドライブが好きでよくハンドルを握ります。常に適度な車間距離、早めのブレーキ、早めのウインカーを心がけています。車間距離をとってれば、前方の動きにも対応できますし、早めのブレーキにより後方の合図にもなります。車同士の唯一のコミュニケーションはウインカーですので、早めに意思表示をすることで事故を防ぎたいと考えています。

人間関係を考えてみると、車の運転と同じではないかと思うことがよくあります。人間には物的にも精神的にも「これ以上は近づかれない」距離があるそうです。あまりに近づきすぎると気にしなくても良いことが気になったりしてつい相手のことを腹立たしく思ったりします。だから人と人の距離を取る

ことが必要になります。また、相手に対してマイナスの感情が芽生えた時こそ、早めのブレーキが必要になります。相手に腹が立った時などついつい文句の一つも言ってやろうと本能的に近寄りたくなります。本能のまま近づくとトラブルにつながるので気持ちにブレーキをかけることが肝要です。さらに、コミュニケーションの必要性は言うまでもありません。自分の気持ちを相手に伝えるには相応のスキルが必要となるのです。

先日、定期的に行う『困りごと調べ』を行いました。「授業中にうるさい子」「ちょっかいを出されて嫌な気持ちになっている子」「登校中にしゃべってばかりいて歩くのが遅い子」等々、トラブルがあちこちで起きています。先生方は、その一つ一つに寄り添い事情をよく聞き取って、どうすべきだったのか、これからどうしたらよいのかを子どもに考えさせます。子ども同士のトラブルが起きた時、「だめだ!」「そういうことはやるな!」と感情的に厳しく怒って終わりではなく、そのトラブルを反省し、望ましい人間関係を築くためにどのような行動をとればよいのかを一緒に考えるよう厳しく叱ってあげることを継続することです。もちろん家庭でも同じです。怒るだけでは、そこから逃れる術を身に付ける子どもが育ちます。そうではなく、自分の間違いに気づく子どもを育てるために、しっかり叱りましょう。これも“学び”です。